

令和 6 年 9 月 15 日現在

機関番号：34516

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21H00913

研究課題名（和文）「幼児の遊びを止めない！」幼児教育でのICT活用フレームワークの構築

研究課題名（英文）"Do not stop children's play!" Development the framework for ICT utilization in ECEC.

研究代表者

堀田 博史 (Hotta, Hiroshi)

園田学園女子大学・人間教育学部・教授

研究者番号：60300349

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,300,000円

研究成果の概要（和文）：園と家庭を繋ぐICT活用が保育における幼児の直接体験や創造的な活動を強化するために、ICT活用に先進的な取り組みをしている園へのインタビュー等を実施し、ガイドラインを作成、公開した。さらに、保育者及び保護者が自己評価できる情報活用能力チェックリストをそれぞれ作成、それらに対応したオンライン学習サイトを構築・公開、評価を得た。また、園の情報化認定制度を立ち上げ、オンライン学習サイトも構築している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が目指す学術的意義は、ECEC及び就学前教育の保育の質向上を目指すためのICT環境構築とその活用に関するフレームワークを考えることにある。ガイドラインや保育者・保護者の情報活用能力育成の基準を含めたフレームワークを構築することなど、科学的な知見を通じて幼児教育分野に反映させることは、日本でのECECや就学前教育において、保育の質が向上する過程を保證する事実やエビデンスがないこと、保育の質を測定する基準がないこと、さらにどうすれば保育の質が高められるか、という理念や精神論ではなく具体的事実が必要である、という指摘にも対応でき、幼児教育への学術的貢献に寄与すると考える。

研究成果の概要（英文）：We conducted interviews with advanced kindergartens that use ICT to enhance the direct experiences and creative activities of young children. Based on the results, we created and published guidelines.

Additionally, we developed self-assessment checklists for both childcare teachers and parents to evaluate their information utilization abilities. We also developed an online learning site corresponding to the checklists. we have created a certification system to assess the progress of ICT utilization in kindergartens and developed an online learning site for this purpose.

研究分野：教育工学

キーワード：幼児教育 ICT活用 タブレット端末 園のICT環境 保育者の情報活用能力 保護者の情報活用能力

1. 研究開始当初の背景

乳幼児期の質の高い教育と養護 (Early Childhood Education and Care, ECEC) プログラム、及び就学前教育 (Pre-Primary education) の保育の質向上がますます重要視される中、当該分野がこれまでの古典的な保育思想から、現代的な科学技術の優位な点を取り入れた教育転換に大きく遅れていることが、学術的な問いの核心にある。その転機のひとつが、2017年11月教職課程コアカリキュラム・保育内容の指導法に示された一般目標「各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる」にある。さらに、2018年2月幼稚園教育要領解説 (文部科学省) 指導計画の作成上の留意事項(6)情報機器の活用では「幼児期は直接的な体験が重要であることを踏まえ、視聴覚教材やコンピュータなど情報機器を活用する際には、幼稚園生活では得難い体験を補完するなど、幼児の体験との関連を考慮すること。」とある。また、文部科学省の2021年度概算要求「幼児教育の振興・子供の育ちを守る幼児教育の推進」では、教育支援体制整備事業費交付金として、幼稚園のICT環境整備を支援するとしている。すなわち、ECEC や就学前教育における保育の質向上のひとつの手法として、保育活動や園務、保護者支援で情報通信技術 (Information and Communication Technology, ICT) を活用すること、またそれぞれのデータの有機的な連携を実現するためのICT環境の構築と保育者及び保護者の情報活用能力が求められることになる。

2020年3月から5月にかけて、新型コロナウイルス感染症により、外出自粛期間が長引き、幼児の通園が一時不可能となった。保育現場では、園と家庭を繋ぐ「幼児の遊びを止めない！」様々な取り組みが試行された。例えば、YouTube を活用した保育者による歌唱や工作過程の映像が、オンデマンドで配信された。また、Zoom や Skype などテレビ会議アプリによる、園で遊べない幼児の不安や保護者との連絡を可能とする、ライブ通信も試行された。同時に、園と家庭を繋ぐICT環境整備の遅れの顕在化や保育者の情報発信やオンライン教材作成方法の知識不足による混乱も招いた。一方家庭では、保護者が幼児教育に必要な教材やその活用法を探し求める試行錯誤が続いた。

2. 研究の目的

本研究では、「幼児の遊びを止めない！」に着目し、保育の質向上のひとつの手法として、幼児教育でのICT活用フレームワークの構築を目的とする。第一に、園と家庭を繋ぐICT活用が保育における幼児の直接体験や創造的な活動を強化する事例を収集し、共通点をガイドラインに整理する。第二に、整理されたガイドラインの知見をもとに、教育工学や幼児教育、発達心理学、医学の専門家の多角的な意見を組み入れ、①保育者の情報活用能力の可視化、②保育者の情報活用能力育成学習サイトの構築、③園の情報化認定制度の設立、④保護者の情報活用能力の可視化、⑤保護者の情報活用能力育成学習サイトの構築を通じて、幼児教育全般に広げる。

3. 研究の方法

<調査1>園と家庭を繋ぐICT環境及び活用事例の収集

園と家庭を繋ぐICT環境やその活用事例が集約されておらず、その効果や課題が共有されていない。そこで2021年度前半は、全国の幼稚園・認定こども園を無作為に1,000園抽出し、郵送による質問紙調査を実施するとともに、Webサイトに園と家庭を繋ぐICT活用事例を公開している幼稚園・認定こども園を調査し、活用状況を整理する。2021年度後半には、複数園を訪問調査し、ヒアリングにより詳細情報を収集する。さらに、ICT活用に先進的な取り組みをしている中国・上海などのICT活用事例を収集するために、現地への訪問またはテレビ会議による調査を実施する。

<開発1>園と家庭を繋ぐICT環境及び活用ガイドラインの作成・公開

2021年度<調査1>で整理した内容をもとに、園と家庭を繋ぐICT環境及び活用の基準となるガイドラインを2022年度前半に作成する。作成したガイドラインは、2022年度後半に冊子及びWebサイトで公開し、評価を得る。

<開発2>保育者の情報活用能力育成に向けた学習サイトの構築

2021年度<調査1>で整理した内容をもとに、保育者が自己評価できる情報活用能力チェックリストを2022年度前半に作成、更新を重ね公開する。また、情報活用能力チェックリストに対応した活動内容が学べるオンライン学習サイトを2022年後半に構築する。2023年度には、構築された学習サイトを公開、受講者を募り、一定期間学習を継続し、学習サイトの評価を行う。

<開発3>園の情報化認定制度の設立

2021年度<調査1>で整理した内容から、園と家庭を繋ぐICT環境整備状況やその活用法を把握し、どのようなICT環境及び活用が必要かを明示、自己評価できる園情報化チェックリストを2021年度後半に開発する。2022年度前半には、園と家庭を繋ぐICT環境構築及び活用を実践している園を顕彰する園情報化認定制度を設立する。

<調査2>園からの情報を受信する保護者のICT環境及び活用状況の調査

2021年度前半は、保護者がどの程度園から発信される情報を受信するICT環境を準備し、情

報活用しているのか状況調査する。さらに2021年度後半には、複数の保護者にヒアリングを行い、詳細情報を収集する。またICT活用に先進的な取り組みをしている中国・上海などの保護者のICT環境整備状況及び情報収集・活用調査のために、現地への訪問またはテレビ会議による調査を実施して、保護者に必要な情報活用能力を整理する。

<開発4>保護者の情報活用能力育成に向けた学習サイトの構築

2021年度<調査2>で整理された内容をもとに、保護者が自己評価できる情報活用能力チェックリストを2022年度前半に作成、更新を重ね公開する。また、情報活用能力チェックリストに対応した活動内容が学べるオンライン学習サイトを2022年後半に構築する。2023年度には、構築された学習サイトを公開、受講者を募り、一定期間学習を継続し、学習サイトの評価を行う。

4. 研究成果

<調査1>園と家庭を繋ぐICT環境及び活用事例の収集

引用文献①

2021年6月下旬から8月上旬までの回答期間で、全国1,000園(国公立・私立・都道府県・規模の隔たりを考慮)の幼稚園・こども園に調査を依頼した。8月上旬までに333園より返信(有効回答数329/内訳:国公立100園,私立229園)があった。本稿では、コロナ禍で園と家庭を繋ぐICT環境の整備状況とICT活用の効果と課題について、質問紙調査により明らかにした。登園できない期間に動画配信を実施していた園は33.8%、登園できない期間にオンライン保育を実施した園は8.2%、登園再開後も動画配信やオンライン保育を継続している園は23.7%と、いずれも高い値ではない。動画配信・オンライン保育・保育システムの効果については、「園と家庭の繋がり」「保護者対応」「ICTスキルの向上」の因子が抽出された。また課題については、「ICT活用スキル」「ICT活用への家庭の理解」「ICT活用への環境整備」の因子が抽出された。さらに、公立園と私立園との差の検定では、公立園が私立園に比べて、ICT環境整備が遅く、活用への不安を抱いていることも明らかとなった。

これらの状況をもとに、協力園にタブレット端末等を貸し出し、実践事例を収集した。以下の事例は、協力園が実践を発展的にまとめ、表彰された一部である。

<https://www.city.ashiya.lg.jp/kodomo/hoiku/sonikyoiukushiennpuroguramu.html>

引用文献②

2021年12月に、中国の上海市、山東省(青島市)、広東省(肇慶市)にある3つの公立幼稚園と2つの私立幼稚園の園長を対象に、オンラインによる半構造化インタビューを以下(a)~(d)の4カテゴリーで一人につき30分行った。

(a) ICTを活用して、親に発信したい情報/子どものICTサポート

分類1「保護者に発信したい情報はどのようなものか」、分類2「園でのICT活用状況」、分類3「子どもにICTを自由にさせない理由」、分類4「子どもがICT機器を上手く使用するためのルール」

【まとめ】園でのICT活用不可欠と考える。子どものICT使用は慎重である。

(b) 保育者のICT情報能力

分類1「「情報活用能力」という言葉から湧くイメージは?」、分類2「若手とベテランの差」、分類3「保育者の情報活用能力レベル」

【まとめ】若手とベテランは役割分担、協力体制。「情報能力2.0」で底上げ。

(c) オンライン保育・動画の取り組み

分類1「オンライン保育実施の有無、動画配信の内容」、分類2「配信アプリと頻度」、分類3「保育システム導入のメリット」、分類4「デメリットや不安、そのための工夫」

【まとめ】配信頻度高く、内容も豊富。子どもの個人情報保護の意識は高い。

(d) ICTスキルを高めるための学習内容/今後の展望

分類1「ICTスキルを高めるための学習内容」、分類2「目指すもの/今後の展望」

【まとめ】若手とベテランは役割分担、協力体制。「情報能力2.0」で底上げ。

<開発1>園と家庭を繋ぐICT環境及び活用ガイドラインの作成・公開

園と家庭をつなぐ ICT環境・活用ガイドブック

<http://hotta-lab.info/kids/2021/guidebook2021.pdf>

<開発2>保育者の情報活用能力育成に向けた学習サイトの構築

引用文献③

教員のICT指導力チェックリスト(文部科学省,2018)の項目も参考にして17項目を仮構成要素とした。さらに、オンラインやオンデマンドによる情報配信技能を加え、保育のICT活用に詳しい保育現場の園長や保育者から意見を収集し再検討した。結果、情報活用能力に係る構成要素25項目を特定した。

次に、特定した項目を、(株)マクロミルの全国モニターのうち、幼稚園または認定こども園に勤務する保育者を対象に「1(ほとんどできない)から4(よくできる)」の4段階評定による回答を求めた。結果、321名分(男性10名,女性311名)の有効データを得た。

分析の結果、保育者の情報活用能力に係る構成要素は、4要因(子どもへのICT指導スキル、ICT

による情報活用スキル、オンライン保育・情報配信スキル、基礎的な ICT 機器使用スキル) から成り立っていることが分かった。

保育者の情報活用能力チェックリストを作成・公開

<https://forms.gle/Xar2CDMompaxUwM17>

上記チェックリストに対応したオンライン学習サイトを以下の構成で構築した。

Web サイトでの公開は、2024 年 3 月末で終了している。

保育者の情報活用能力育成

1. ICT を活用した資料作成と情報共有
2. ICT を活用した保育情報の収集と共有
3. 保育活動の振り返りでの ICT 活用
4. ICT 活用時の情報モラル
5. ICT 活用時の健康への配慮
6. 幼児の ICT 活用時のトラブル
7. 幼児の ICT 活用時のルール決め
8. ICT を活用した保護者への保育活動の提示
9. ICT を活用した保育活動の保護者との共有
10. 園と家庭を繋ぐ写真・動画の共有

引用文献④

構築したオンライン学習サイトを公開して評価を得た。各レッスンに対するアンケートは、同じ 5 つの質問で構成されており、4 段階の尺度で回答された。

- ・レッスン内容に満足している
- ・レッスン内容を理解している
- ・レッスン内容に対する関心が高まった
- ・幼児教育・保育の実践に役立つ
- ・知識と能力が向上した

レッスン内容に対する満足度については、各レッスンの平均値が 3.70 から 3.41 の範囲であり、評価者が基本的にレッスン内容に満足していることが確認された。レッスン内容の理解と関心については、レッスン平均の上位 3 つは同じで、レッスン 3, 4, 7 であった。

また、「4. ICT 活用時の情報モラル」、「5. ICT 活用時の健康への配慮」、「6. 幼児の ICT 活用時のトラブル」、「7. 幼児の ICT 活用時のルール決め」は、オンライン学習前後の評価者の回答において特に大きな改善が見られた。

<開発 3>園の情報化認定制度の設立

園の情報化認定チェックリストを公開

<https://forms.gle/9eNGS6F8f2SsKy4T9>

公開とともに、以下の認定条件で「園の情報化認定証」を発行した。

<認定条件>

- (1) チェックリスト 13 項目各 3 点満点で 26 点以上
 - (2) 3 点満点が 3 つ以上
 - (3) 項目「園のホームページを開設していない」だと NG
 - (4) 3 点満点の 1 点 (回答) への今後の改善案を提出願う
- 9 園からの応募があり内 2 園が認定条件を満たした。

上記チェックリストに対応したオンライン学習サイトを以下の構成で構築した。

Web サイトでの公開は、2024 年 3 月末で終了している。

園の情報化推進教材

1. 保育システムの導入と業務の効率化
2. Wi-Fi 環境で実現する情報共有
3. 園のホームページや SNS での情報共有
4. 園の情報化と個人情報や著作権の取り扱い
5. 保育での ICT 導入・活用での職員研修
6. 保護者が園の ICT 化に期待すること
7. インターネットによる子育て支援
8. ICT を活用したドキュメンテーション

<調査 2>園からの情報を受信する保護者の ICT 環境及び活用状況の調査

引用文献⑤

2021 年 12 月に、中国の上海、青島、広州にある幼稚園の保護者 5 名 (5 歳児親 2 名・4 歳児親 1 名・3 歳児親 2 名) を対象に、オンラインによる半構造化インタビューを行った。質問は「保護者の情報活用」に関わる項目と「園での ICT 活用」に関する項目で、一人あたり約 30 分程度で実施した。

<開発4>保護者の情報活用能力育成に向けた学習サイトの構築

保護者の情報活用能力チェックリストを以下の項目で作成

子育ての ICT 活用

セキュリティ

園との連携での ICT 活用

子どもの知的側面・知育的側面での ICT 活用

子どもの社会情動的スキル側面での ICT 活用

子どものデジタルリテラシーの育成

上記チェックリストに対応したオンライン学習サイトを以下の構成で構築した。

Web サイトでの公開は、2024 年 3 月末で終了している。

1. デジタル時代に賢い保護者になるために
2. 子育ての ICT 活用
3. 保護者向け情報セキュリティ
4. 園との連携に向けた ICT の活用
5. 園との連携における ICT 活用の注意点
6. 子どもの知育・学習場面での ICT 活用
7. 知育だけじゃない！ICT との付き合い方
8. 子どものデジタルリテラシーを育むために

引用文献⑥

保護者の情報活用能力とは、保護者がスマートフォンやコンピュータを使ってインターネットにアクセスし、必要に応じて育児に関する情報を取得・活用する能力を指す。また、子どもたちがスマートフォンやタブレットを適切に使用するためのサポートや、知識を取得・学習するためのアプリを選択・サポートするスキル（能力）も求められる。

上記、保護者の情報活用能力チェックリストの事前と事後の結果を比較し、保護者がオンライン学習サイトから学ぶことができたかどうかを確認した。最初の子供が年長児である保護者を募集した。

実験に参加するよう招待された保護者のうち、事前と事後に回答した 37 名の回答に対し、対応のある t 検定を実施、「保護者のための情報セキュリティ」、「幼稚園と協力して ICT を利用する際の留意点」、「知的教育と学習のための ICT の活用」で有意な差が見られた。

<引用文献>

- ① 堀田博史・田爪宏二・奥林泰一郎・勝見慶子・佐藤朝美・佐藤鮎美・今野貴之、『園と家庭を繋ぐ ICT 活用による情報発信の効果と課題』、日本教育メディア学会 2021 年度 第 2 回研究会，pp. 34-37，2022 年 2 月 27 日
- ② 劉愛萍・佐藤朝美・堀田博史、『園と家庭をつなぐ ICT の活用—中国インタビューからの示唆（園長編）—』、第 19 回日本子ども学会学術集会ポスターセッション，2023 年 9 月 24 日
- ③ 堀田博史・田爪宏二・奥林泰一郎・勝見慶子・佐藤朝美・佐藤鮎美、『保育者の情報活用能力に係る構成要素の抽出』、日本教育工学会 2022 年春季全国大会，pp. 299-300，2022 年 3 月 20 日
- ④ Koichi YOSHIZAKI, Hiroshi HOTTA, “Promenade Early Childhood Education A Practical Evaluation of an Online Course to Develop Information Literacy for Japanese ECEC Teachers.”, Poster Session, HICE 22th Annual conference, 2024. 01. 04
- ⑤ 佐藤朝美・劉愛萍・堀田博史、『園と家庭をつなぐ ICT の活用—中国インタビューからの示唆（保護者編）—』、第 19 回日本子ども学会学術集会ポスターセッション，2023 年 9 月 24 日
- ⑥ Tomomi SATO, Keiko KATSUMI, Koichi YOSHIZAKI, Hiroshi HOTTA, Ayumi SATO, Yoichi SAKAKIHARA, “Development and Evaluation of Checklists and Video Materials for Parents: Focusing on Parents Raising Children in the Digital Age.”, p59, Poster Session, HICE 22th Annual conference, 2024. 01. 04

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 岸本健・蒲谷慎介・佐藤鮎美	4. 巻 Vol.67, No.1
2. 論文標題 観察法を用いてきた発達心理学者はどのようにコロナ禍を凌いだのか	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 心理学評論	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato, A., Sato, K., Sato, T., Tazume, H., Hotta, H.	4. 巻 BTrack3:2024
2. 論文標題 The Influence of Parents' Attitudes toward ICT Devices and Media Literacy on Children's Screen Time: Online Surveys of Japanese Parents	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Proceedings of the International Conference on Media in Education ICoME 2022 Hawaii Concurrent	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 佐藤賢輔・大久保圭介・佐藤鮎美・佐藤朝美
2. 発表標題 子どもとデジタルのスマートな関係構築を目指して
3. 学会等名 日本発達心理学会第35回大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Tomomi SATO, Keiko KATSUMI, Koichi YOSHIKAWA, Hiroshi HOTTA, Ayumi SATO, Yoichi SAKAKIHARA,
2. 発表標題 Development and Evaluation of Checklists and Video Materials for Parents: Focusing on Parents Raising Children in the Digital Age. ”
3. 学会等名 HICE 22th Annual conference (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 佐藤朝美・劉愛萍・佐藤鮎美・堀田博史
2. 発表標題 園と家庭をつなぐ ICT の活用 中国インタビューからの示唆(保護者編)
3. 学会等名 第19回子ども学会議学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 堀田博史・勝見慶子・佐藤朝美・榊原洋一
2. 発表標題 デジタル時代の子どもを育む担い手の学びの支援について～園・保育者・保護者を対象としたチェックリストと動画教材の開発と評価～
3. 学会等名 第19回子ども学会議学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Koichi YOSHIZAKI, Takayuki KONNO, Hirotsugu TAZUME, Taiichiro OKUBAYASHI, Keiko KATSUMI, Hiroshi HOTTA
2. 発表標題 A practical evaluation of an online course to develop information literacy for Japanese ECEC teachers
3. 学会等名 22nd Annual Hawaii International Conference on Education (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 劉愛萍・佐藤朝美・佐藤鮎美・堀田博史
2. 発表標題 園と家庭をつなぐ ICT の活用 中国インタビューからの示唆(園長編)
3. 学会等名 第19回子ども学会議学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 KONNO, T., YOSHIZAKI, K., TAZUME, H., KATSUMI, K., OKUBAYASHI, T. and HOTTA, H.
2. 発表標題 Development of an Educational Material to Promote the Informatization for Early Childhood Education
3. 学会等名 21th International Conference for Media in Education 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 今野貴之・吉崎弘一・田爪宏二・勝見慶子・奥林泰一郎・堀田博史
2. 発表標題 幼児教育・保育教員のための情報活用能力育成コースの改善点
3. 学会等名 日本教育工学会 2024 年春季全国大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 堀田博史・飯田良太・澁谷倫子・伊藤浩一・藪田朝美
2. 発表標題 保育でのICT活用第一歩～ここから始めたICT活用～
3. 学会等名 日本保育学会第76回大会自主シンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 堀田博史
2. 発表標題 幼児教育でのICT活用～どのような実践が子供の活動を探究的にするのか～
3. 学会等名 日本食育学会第17回大会(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Sato, A., Sato, K., Sato, T., Tazume, H., Hotta, H.
2. 発表標題 The Influence of Parents' Attitudes toward ICT Devices and Media Literacy on Children's Screen Time: Online Surveys of Japanese Parents
3. 学会等名 the International Conference on Media in Education ICoME 2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀田博史・田爪宏二・奥林泰一郎・勝見慶子・佐藤朝美・佐藤鮎美・今野貴之
2. 発表標題 園と家庭を繋ぐICT活用による情報発信の効果と課題
3. 学会等名 日本教育メディア学会2021年度 第2回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀田博史・田爪宏二・奥林泰一郎・勝見慶子・佐藤朝美・佐藤鮎美
2. 発表標題 保育者の情報活用能力に係る構成要素の抽出
3. 学会等名 日本教育工学会2022年春季全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤朝美・佐藤鮎美・田爪宏二・勝見慶子・奥林泰一郎・堀田博史
2. 発表標題 幼児のICT活用に関する保護者用教材作成のための予備調査
3. 学会等名 日本教育工学会2022年春季全国大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 佐藤朝美	4. 発行年 2024年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 133
3. 書名 デジタル時代の賢い「スマホ育児」：楽しむ・選ぶ・習慣づける	

〔産業財産権〕

〔その他〕

科研成果 http://hotta-lab.info/index2.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	榊原 洋一 (Sakakihara Yoichi) (10143463)	お茶の水女子大学・ ・名誉教授 (12611)	
研究分担者	吉崎 弘一 (Yoshizaki Koichi) (10351785)	大分大学・学術情報拠点・准教授 (17501)	
研究分担者	田爪 宏二 (Tazume Hirotsugu) (20310865)	京都教育大学・教育学部・教授 (14302)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	奥林 泰一郎 (Okubayashi Taiichiro) (60580941)	大阪大学・大学院人間科学研究科・招へい研究員 (14401)	
研究分担者	佐藤 朝美 (Sato Tomomi) (70568724)	愛知淑徳大学・人間情報学部・教授 (33921)	
研究分担者	今野 貴之 (Konno Takayuki) (70632602)	明星大学・教育学部・准教授 (32685)	
研究分担者	佐藤 鮎美 (Sato Ayumi) (90638181)	島根大学・学術研究院人間科学系・講師 (15201)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	劉 愛萍 (Ryu Aipen)		
研究協力者	小川 淳子 (Ogawa Junko)		
研究協力者	勝見 慶子 (Katsumi Keiko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------